

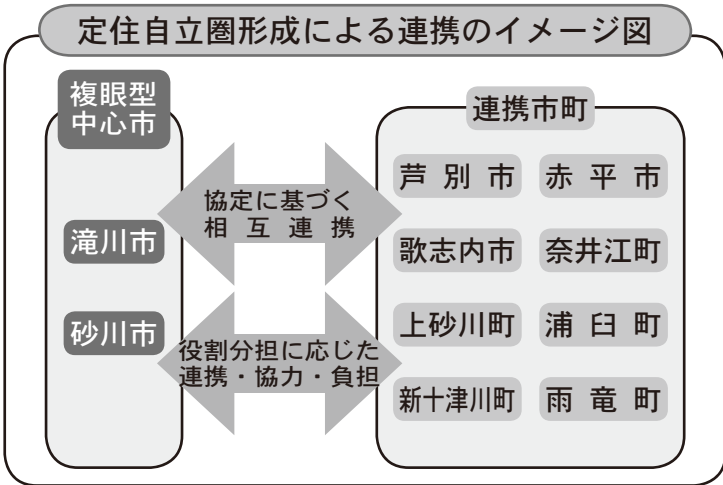
「定住自立圏構想」に取り組んでいます

芦別市では、中空知広域市町村圏組合に加盟している市町とともに、現在、新たな広域連携による地域づくり「定住自立圏構想」に取り組んでいます。今月はその概要についてお知らせします。

定住自立圏構想について

定住自立圏構想とは、人口減少が続く地方圏において、都市圏への人口流出を食い止めるため、圏域の市町村が連携協力して、お互いに役割分担し、必要な生活機能の確保や魅力の創出、医療、福祉、公共交通、公共施設の相互利用など、住民の利便性を高めることで人口流出に歯止めをかけ、圏域全体の定住促進、活性化につなげていくことを目的とした、新たな広域連携の取り組みです。

定住自立圏は、中心市宣言を行った中心市と連携する市町が、1対1で自らの意思により各議会の議決を得て協定を締結し、その後具体的な取り組みの協議を行いながら進めていくものです。



- ### 【取り組み事項】
- 1 生活機能の強化のための取り組み
(医療、福祉、教育、産業振興、防災など)
 - 2 結びつきやネットワーク強化のための取り組み
(地域公共交通、道路などのインフラ整備、地域内外との交流・移住促進など)
 - 3 圏域マネジメント能力の強化のための取り組み
(職員研修など)

道内では、これまでに旭川市を中心市とする上川中部圏域など、9つの圏域で取り組みが行われています。

中空知圏域での取り組みについて

中空知圏域では、中空知広域市町村圏組合に加盟する5市5町(芦別市、赤平市、滝川市、砂川市、歌志内市、奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、雨竜町)により定住自立圏を形

成し、この取り組みを行うこととして、現在協議が進められています。

定住自立圏構想の実現には、人口など一定の要件を満たす市が、中心的な役割を担うことを意思表示する中心市宣言を行う必要があります。今年1月に滝川市と砂川市が、両市を一つの市とみなす「複眼型中心市」として、中心市宣言を行いました。

また、先月には本市のほか4市5町

の各議会において、中心市と連携する市町との間の基本的な取り組み事項などを定める「定住自立圏形成協定」案が議決されました。

今後の取り組みについて

今月中旬に中心市とそれぞれの連携市町で定住自立圏形成協定を締結し、8月には中心市が生活機能確保の役割を担う民間や地域の関係者、地域住民の代表者、学識経験者で構成する「共生ビジョン懇談会」を組織し、圏域のあるべき将来像や具体的な連携内容について検討を行います。

また、圏域住民を対象としたパブリックコメント(意見公募)を実施し、11月末までに協定締結した中心市と連携市町との協議により「定住自立圏共生ビジョン」を策定する予定となっています。その後、共生ビジョンに基づき、中心市と連携市町が役割分担したうえで、具体的な連携事業を実施していくこととなります。

今後、具体的に取り組む内容が明らかになりますが、その内容については改めて市民の皆さんにお知らせします。